

21世紀のバッハ「ヨハネ受難曲」に寄せて



人間を描く！

三澤 洋史

東京バロック・スコラーズ音楽監督

新国立劇場合唱団首席指揮者としての活動を中心にオペラの世界に身を置き、ワグネリアンとして楽劇「ニーベルングの指環」全四部作を指揮する私は、ミュージカルを台本から書き、作曲、演出をする。私にとっては、音楽にドラマを感じ表現することが天職のような気がする。

それ故に私の演奏する受難曲はオペラ的になるのかと勘違いする人はいるかもしれない。だがそれは全く違う。私は、全ての“いわゆるオペラ的”なるものを嫌悪する。何をやっても、私が目指すものはドラマそのものなのだ。ドラマとは、「人間とは何か?」という問いであり、「生きるとは何か?」ということへの模索である。私がドラマに向かうのは、宗教に傾倒するのと同じモチベーションによる。

ソリスト達の顔ぶれを見ていただきたい。しかし私は彼らとオペラをやるのではない。私が選び抜いた彼らは「人間を描く達人たち」なのだ。

まるで台風の目のような静けさに支配されているイエスの回りに、怒濤のような混乱や怒り、欺瞞、陰謀、裏切り、悔恨などの感情が荒れ狂う。どうしてこのようなことが起こったのか? 何故、救世主は殺されなければならなかったか?

福音史家が、簡単な伴奏に乗って、歌とも朗読ともつかないやり方で淡々と物語りを進めて行く。しかし、この方法は、どんな大管弦楽も及ばないドラマチックな効果を紡ぎ出す。書くことが仕事である作曲家の“究極的な挑戦”とは、最低限の音符を書き、あとは表現者の感性を信じること。

加えて、群衆合唱の迫力に満ちた表現力。心に染みる珠玉のアリア。どれをとっても、バッハのドラマティカーとしての圧倒的な能力に舌を巻くばかりだ。しかも、それらすべての表現に、神を信じ、人間を信じていた彼の愛があまねく行き渡っている。

進化した東京バロック・スコラーズは、ここに満を持して、世界に「ヨハネ受難曲」を発信する!



ソリスト SOLIST



福音史家
畑 儀文



イエス
小森 輝彦



ソプラノ
國光 ともこ



アルト
清水 華澄



テノール
鈴木 准



バス
萩原 潤



コンサートマスター
近藤 薫

東京バロック・スコラーズ Tokyo Baroque Scholars

三澤洋史のもとで「21世紀のバッハ」を追求しようという志を共有し、一緒にバッハを楽しみ、ステージを作り上げていく仲間を募集しています。演奏のみならず、公開レッスンや講演会などの多角的な活動も行ない、バッハの探求を幅広く目指しています。

団員募集 見学大歓迎

入団に際してはオーディションを受けていただいています。日程等についてはホームページをご覧ください。



武蔵野市民文化会館 MAP



★公共の交通機関をご利用ください。

- ・JR 三鷹駅北口より徒歩 13分 またはバス①番
バス②番 *「市民文化会館入口」下車徒歩2分
- ・JR 吉祥寺北口よりバス①番、バス②番
*「市民文化会館前」下車すぐ